

平成29年2月23日

報道関係各位

独立行政法人国立科学博物館

3万年前の航海 徹底再現プロジェクト

2017年より舞台を台湾に広げて、新たな実験活動を始めます

本プロジェクトについて、これまでの多数の報道に感謝申し上げます。

2017年の活動体制と内容が決まりましたので、お知らせ致します。

また台北での記者説明会と、東京での展覧会についても、合わせてご案内致します。

目次

- 1) 2017年の活動体制と内容
- 2) 記者説明会を開催します(台北)
- 3) 皆様より情報をお寄せ願います
- 4) 展覧会のお知らせ(東京)
- 5) プロジェクトについて知るには



主催：国立科学博物館 共催：国立台湾史前文化博物館
協力：与那国町 沖縄県立博物館・美術館 NPO法人琉球地球環境センター 石垣市 竹富町教育委員会
後援：沖縄県 沖縄県教育委員会 日本経済新聞社

オフィシャルパートナー
JAPAN AIRLINES JTA RAC LUMINE

1) 2017年の活動体制と内容

趣旨と昨年までの活動

3万年前頃、人類は初めて困難な琉球周辺の海を越え、沖縄などの島々へと渡ってきたことがわかってきました。これは人類史における海への挑戦のはじまりを知る上で貴重な事例であり、当地域の研究者の手で究明して世界へ発信すべきことであると考えます。本プロジェクトは、人類・考古・民族・古海洋学などの多彩な先端研究と合わせて、当時の舟を学術的に推定して復元し、人類初源期の航海を可能な限り多角的に再現しようとする、世界でも例のない試みです。

昨年はその第一段階として、クラウドファンディングで得た資金により、草(ヒメガマ)舟で与那国島から西表島を目指す実験航海を行いました(詳しくはプロジェクトの公式ホームページ等をご覧ください)。

2017年は竹筏をテスト

本プロジェクトの最終目標は、難関の黒潮越えを伴う台湾→与那国島の長距離航海で、2019年の実現を目指しています(図1)。その前の2016~2018年の活動では、祖先たちがそこで使った舟がどのようなものであるべきなのかを探るためにいくつかの可能性を試し、本番に備えることにしました。

昨年(2016年)は与那国島で草舟(厳密には草筏)を試しましたので、2017年は台湾にてもう1つの有力候補である竹筏をテストします。

竹は台湾に豊富に自生しており、東海岸沿いに暮らす台湾原住民（※）のアミ族もかつてトビウオ漁のために竹筏を盛んに作っていました（図2）。さらにインドネシアの海で、人類最初の航海に使われたのが竹筏であったと多くの研究者が想像しているため、可能性として外せない材料です。

なお本年は丸木舟のテストも別途構想中ですが、これについては改めてお知らせいたします。
※台湾原住民は台湾政府が定める先住民に対する公式用語で、差別用語ではありません。

国立台湾史前文化博物館（台東市所在）が共催に

本年から開始する台湾での活動には、新たな体制で臨みます。本年より共催として国立台湾史前文化博物館を迎え、日本の国立科学博物館と共同で実験に取り組んで行くことが決まりました。3月2日の台北での記者会見にて、調印式を行う予定です。

また日本台湾交流協会からも後援をいただき、国際共同プロジェクトとしての体制を整えました。

「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」

主催：国立科学博物館 共催：国立台湾史前文化博物館

協力：与那国町、沖縄県立博物館・美術館、NPO 法人国境地域研究センター、石垣市、竹富町、竹富町教育委員会

後援：沖縄県、沖縄県教育委員会、日本台湾交流協会

オフィシャルサポーター： JAL/JTA/RAC LUMINE

制作する竹筏

アジア・太平洋地域に最近まで残存していた竹筏の利用は、基本的に川や湖あるいは沿岸部に限られていたため、過去に外洋で使われたかもしれない竹筏のデザインについては、直接的な証拠がありません。そこで私たちは「竹という素材の可能性を追究すること」を本実験の目的とし、波と風と海流がある外洋に出るための竹筏を独自に考案します。これは昨年の草舟の実験と同じ考え方で、草や竹という素材について知ることを目標にするのです。最終的なデザインは直前まで検討して決める予定ですが、世界の民俗事例を参考に、海洋船舶工学的視点も取り入れます。

竹を縛る素材としては、台湾で伝統的に使われていた籐を利用します（図3）。籐は強烈な刺がある扱いにくい植物ですが、茎の中の繊維が長く強く、家具などの制作に広く利用されているのはご存知のとおりです。

与那国島で草舟の制作に使ったトウツルモドキは台湾にはなく、逆に熱帯性の籐は与那国島を含む日本に自生していない植物です。旧石器時代でも、得られる材料が島ごとに異なり、祖先たちは新しい島で新しい材料を試していったことは想像に難くありません。

主なスケジュール（※変更になる可能性があります）

- | | |
|-------------|---|
| 3月2日 | 記者会見・調印式（於：台北）
これに前後して台東県の山中で竹や籐の採取を始めます |
| 3月21日～4月20日 | 竹筏の制作（於：国立台湾史前文化博物館） |
| 6月上旬 | 竹筏のテスト航海（於：台東県） |

2) 記者説明会を開催します (台北)

台北にて、本プロジェクトの概要と本年3月から始まる活動の内容について説明いたします。

【日時】2017年3月2日(木) 10:30~11:35 (10:00開場) (日本時間 11:30~12:35)

【会場】文化部南海工作坊- 臺北市中正區南海路20號9樓901會議室

【主な出席者】国立台湾史前文化博物館の関係者と海部代表 (国立科学博物館)

【使用言語】中国語

【問合せ先】邱瓊儀 E-mail: charlotte@nmp.gov.tw 電話: 0919139789 (台湾の番号です)

※英語が通じます

【参加の事前申込み】不要ですが、なるべく上記問合せ先および文末の問合せ先 (国立科学博物館研究活動広報担当) へご一報ください。

- ◇ スケジュールの都合上、日本での会見は行いませんが、海部代表が電話取材を受けます。
Eメール: kaifu@kahaku.go.jp
- ◇ 会見終了後に、ご希望の方に台北での会見の写真をお送りいたします。文末の問合せ先 (国立科学博物館研究活動広報担当) へ事前にご連絡ください。

3) 情報をお寄せください - 台湾から沖縄県の島が見えるか?

太古の航海再現に必要な情報を多くの方々から寄せて頂けるよう、プロジェクトの公式ホームページ (<http://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>) に、下記の情報提供の依頼を掲載しました。これについて報道・紹介頂ければ幸いです。

「情報をお寄せください - 台湾から沖縄県の島が見えるか?」

日本の最西端に位置する与那国島からは、稀ながら台湾が見えます。これは台湾の東側に、2000~3000メートル級の高山が連なっているためです (図4)。一方、その逆は難しいようで、一般に台湾から与那国島など日本の島は見えないと言われていています (図5)。

しかし祖先たちが3万年前にこれらの島への渡海を決意したなら、彼らは何らかの方法で島の存在を知っていたということになります。実際に計算上は、台湾の高山から西表島などが見えておかしくありません。

3万年前の台湾からの大航海を再現するには、祖先たちがどのように島を認識し、黒潮の流れを考慮してどんな作戦を立てたのかを推定しなければなりません。そのためにまず、台湾のどこからどのように沖縄県の島が見えるかを知る必要があります。海面が80メートル低かった3万年前と今では条件が異なりますが、まず現在の状況を確認したいと私たちは考えています。

この件について情報をお持ちの方は、ご提供頂けないでしょうか。ご協力いただける方は下記の内容を、もしあれば写真とともにお寄せください。よろしく願い申し上げます。

氏名; 連絡先 (メールアドレス); いつ、どこから見たかなど; 写真 (あれば)

【この件の連絡先】

国立科学博物館「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」事務局

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

E-mail: koukai@kahaku.go.jp

4) 展覧会のお知らせ

本プロジェクトの昨年の活動の様子を伝えるパネル中心の展覧会を、今春に国立科学博物館で開催します。

科博 NEWS 展示 「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト 2016」

【会期】2017年3月14日(火)～4月2日(日) ※3月21日は休館

【開館時間】9:00～17:00(金・土曜は20:00まで) (入場は閉館の30分前まで)

【会場】国立科学博物館 日本館1階中央ホール

【料金】常設展示の入館料でご覧になれます(一般・大学生620円、高校生以下無料)

【問合せ】文末の問合せ先(国立科学博物館研究活動広報担当)へお願いいたします。

5) プロジェクトについて知るには

上記の展覧会に加えて、以下などで知ることができます。

公式ホームページ(国立科学博物館のトップページから入れます)

<http://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>

関連テレビ番組(ネットで無料視聴できます)

「日本人はどこから来たのか? “実験航海” 3万年前を徹底再現」

ナビゲーター: 宮崎美子 (テレビ東京 2016.12.28放送 58分)

http://txbiz.tv-tokyo.co.jp/feature/vod/post_123919/

<問合せ先>

国立科学博物館研究活動広報担当 福島 昇

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

TEL: 029-853-8901(代表)、029-853-8984(直通)

E-mail: outreach@kahaku.go.jp

画像提供

報道用に下の写真・図をご提供いたします。下記からダウンロードしてください。

<http://firestorage.jp/download/f51a682f936e018b559f355f2b599bc526edb565>

ダウンロードパスワード rk7hcsq3

- ・ 使用目的は今回の報道に限らせて頂きます。
- ・ クレジット表記 提供：国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」などと記してください。短くする場合は「国立科学博物館」を削除して構いません。
- ・ トリミングして構いません。



プロジェクトイメージ

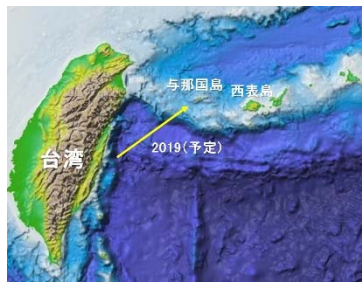


図1 実験航海の舞台



図2 台湾で筏の材料にされていた竹 (台東県)



図3 刺が鋭いが内部の繊維が優秀な紐となる籐 (台東県)



図4 台湾東海岸にそびえる山 (台東県)



図5 台湾の山から沖縄方面を望む (花蓮県)



台湾で制作された竹筏
※このタイプを制作するわけではありませんが、イメージとして利用して頂いて構いません。